

事務事業名	観光振興支援事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

政策番号	04	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
		基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A				
		基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A				
		実行計画	05	観光振興ビジョン	0504	観光まちづくりと連動した観光環境整備の推進			

予算事業名	観光振興支援事業費	会計コード	01	款	07	項	01	目	05	事業	03
-------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 市内には、観光客のための環境整備や安全対策、イベントの開催、インバウンド推進等の活動を通じ、八ヶ岳山麓の観光を下支える様々な団体が存在している。本事業では、これらの団体のうち、茅野市が会員として参加する団体や事務局を担当する団体等、公益性が高く、茅野市の観光振興に寄与する団体に対し、負担金、補助金を支出している。

現状と背景
 (どうして)
 茅野市内における観光消費額がピーク時に比べ約5割減少している。大きな要因は観光客数の減少と思われるが、観光客数の減少率より消費額の減少率が大きく、一人当たり観光消費額の低下が背景として考えられる。このような現状に対し、茅野市単独の事業だけでなく、上記の諸団体の事業を支援し、行政と地域住民とが連携を図りながら観光振興を図る必要がある。

目的
 対象
 受益者
 (誰のために)
 茅野市の観光地を訪れる観光客
 対象
 (直接働きかける)
 それぞれの活動団体及び、その構成団体
 意図
 (どんな状態にしたいか)
 各活動団体が実施する環境整備や安全対策、イベントの開催等により観光客の満足度を向上させ、観光客数および観光消費額の増加を目指す。

手段・方法
 (どうやって)
 茅野市が事務局を担当している団体においては、会議開催、経理事務、一般事務を行い団体活動を円滑に実施する。様々なセクションとの調整が必要となる団体（JR促進、映画祭、諏訪地方観光連盟等）においては、庁内外の関係機関、団体との連絡調整を密に行うことによって、イベントやツーリズムの円滑実施を推進し、また、美しい観光地を維持するための業務委託を通じ、観光客の満足度向上に寄与する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1 総会、事務担当者会議	開催回数	回	団体ごとに必要とされる都度	30
	2 観光地における清掃美化活動	活動回数	回	観光地単位での清掃活動回数	40	
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1 観光客の入れ込み	観光地延利用者数延数	万人	県観光地利用者統計調査	400	
	2 観光消費	観光消費額	億円	県観光地利用者統計調査	125	
	変更履歴					

実況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	23,159,000	21,426,000	
財源内訳	国庫支出金	円	3,651,000	2,975,000			
	県支出金	円	0	0			
	地方債	円	0	0			
	その他特定財源	円	0	0			
	一般財源	円	19,508,000	18,451,000			
活動指標	開催回数	目標	回	30	30		
		実績	回	52			
		達成率	%	173.33	-	-	-
	活動回数	目標	回	40	40		
		実績	回	51			
		達成率	%	127.50	-	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	観光地延利用者数延数	目標	万人	340	350		
		実績	万人	330			
		達成率	%	97.06	-	-	-
	観光消費額	目標	億円	110	110		
実績		億円	105				
達成率		%	95.45	-	-	-	
備考							

事務事業名	観光振興支援事業	事業期間	~	年度	係内番号	01
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

事業評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業評価 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	2つの成果指標について、いずれも目標値には達しなかった。前年度の実数と比較すると、利用者は100.0%、消費額100.2%となり前年度並みとなっている。本事業において支援する団体等の活動は協議を重ね、充実してきているが指標の実績値の増加にはつながらなかった。				
	総合評価	映画祭では、補助金額が半減したが来場者数は前年並みであったことから広く認知されるイベントになりつつある。 諏訪観連では、諏訪の国ブランド事業を推進し、特にSNS等を活用し内外へPRする基盤ができた。 活動指標においては、目標値以上の実績値となり活動が活発化しているが、成果指標の増加にはつながっていない。				
	改革・改善の方向性(ACIT)の内容及び	現状維持 縮小 誘客に直結する団体活動(映画祭、諏訪観連等)においては事業の充実とPR方法を検討する。 間接的に観光振興へつながる事業(道対協、南北、各交付金等)においては事業の継続性を確保しつつ、広く観光事業者と連携を図りながら一体的に茅野市の観光を盛り上げていく。				

作成担当者	長谷川誠				
最終評価責任者	北沢政英				
最終評価年月日	R1.5.17				

事務事業名	観光施設維持管理事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

政策番号	04	基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A	実施計画の施策の柱における指標との関連度	低						
		基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A								
		実行計画	05	観光振興ビジョン	0504			観光まちづくりと連動した観光環境整備の推進					
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID			施策の柱の名称					
予 算 事 業 名	観光施設維持管理費			会計コード	01	款	07	項	01	目	05	事業	05
事務事業の概要	当市の観光エリアは広大であり、登山道、遊歩道、園地、公衆トイレが数多くある。安全に観光を満喫でき快適に公衆トイレを利用できるよう、また自然を守るために必要な施設維持管理を行う。												
現状と背景	観光地には様々な観光客が利用するため、安全かつ快適に観光ができるよう登山道、遊歩道、観光案内看板を含む園地等での修繕が不可欠である。また、公衆トイレは非常に重要な施設であり清潔感を保つことも必要とされる。そして観光客が利用する観光施設だけでなく、観光資源でもある大切な自然環境を守るためにも、必要な維持管理を行う。												
目的	受益者	市民、観光客、登山者											
	対象	施設をパトロールする団体や施設を維持管理する団体											
	意図	安全で快適な魅力ある観光施設を目指し、「茅野市に来てよかった」「また茅野市に来たい」と思われる施設を目指す。											
手段・方法	遊歩道巡回の強化を施し、維持工事が必要な箇所は迅速に対応する。公衆トイレの点検回数、清掃回数を増やす。												
評価指標の作成	活動指標	1	行政が活動することで作り出すもの	遊歩道の維持管理	遊歩道等の巡回数	回	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	観光客等の入り込みが予想されるシーズン中。各月の連休前後等の巡回（月3回）	最終目標値	36			
		2		トイレ清掃、点検回数	トイレ清掃、点検回数	回		清掃管理の委託先と約束している清掃回数の平均値	181				
		3											
	変更履歴												
	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値			
		1	観光客等からの苦情を無くす	非苦情発件数	件	1年間に観光客等からの苦情がなかった日を1件として				365			
		2	観光客の入込数	観光地延利用者数	千人	県観光地利用者統計調査				3,400			
	変更履歴												

項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
事業費等(a)	円	31,790,792	35,147,000				
財源内訳							
国庫支出金	円	0	0				
県支出金	円	0	2,166,000				
地方債	円	0	0				
その他特定財源	円	1,355,048	2,222,000				
一般財源	円	30,435,744	30,759,000				
活動指標	遊歩道等の巡回数	目標	回	36	36		
		実績	回	36			
	達成率	%	100.00	-	-	-	-
	トイレ清掃、点検回数	目標	回	181	181		
		実績	回	181			
	達成率	%	100.00	-	-	-	-
-	目標	-	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
成果指標	非苦情発件数	目標	件	365	365		
		実績	件	360			
	達成率	%	98.63	-	-	-	
	観光地延利用者数	目標	千人	3,400	3,400		
実績		千人	3,300				
達成率	%	97.06	-	-	-		
備考							

事務事業名	観光施設維持管理事業	事業期間	~	年度	係内番号	02
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

事業評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業後評価 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	2つの活動指標について、いずれも目標通りの実績となった。点検並びに清掃管理の頻度を守る事によって、安全で衛生的な状態を保つことができたため、苦情件数が少なく、成果指標についても目標に近い利用者数に達した。				
	総合評価	登山道、遊歩道における歩行者の安全が確保された。公衆トイレが清潔感のある施設となった。				
	課題	公衆トイレに関しては決められた頻度で清掃を行っていたが、ハイシーズンに利用者が集中し、苦情も発生した。利用状況に応じた対応が必要である。				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果やコストの方向性の内容	現状維持 現状維持 観光施設において公衆トイレの改修により観光客の満足度を上げることが最重要事項であると考えられる。様々な施設を管理しており、用途に合わせた観光施設を最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討することが必要である。				

作成担当者	長田 勇人					
最終評価責任者	北沢 政英					
最終評価年月日	R1.5.17					

事務事業名	観光施設整備事業	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	422	

政策番号	04	基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
		基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A		
		実行計画	05	観光振興ビジョン	0504		

予算事業名	観光施設整備費	会計コード	01	款	07	項	01	目	05	事業	06
-------	---------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)

4エリアごとの特徴を生かした観光施設整備を行うとともに、観光客が、気持ちよく安全に満喫できる施設整備を行う。
 ・八ヶ岳エリア・・・登山道整備、トイレ整備、駐車場の整備
 ・白樺湖・車山エリア・・・白樺湖遊歩道・公衆トイレ・駐車場整備、車山観光施設整備
 ・蓼科エリア・・・蓼科湖遊歩道、公衆トイレ及び拠点となる道の駅の整備
 ・綱文の里エリア・・・晴ヶ峰観光施設の整備

現状と背景
(どうして)

・八ヶ岳エリアは、登山ブームにより登山者が増加し、安全な登山道の整備求められている。
 ・白樺湖エリアは、ジョギングロードが整備され、アスリート向けにはPRになるが、一般向けについては、周辺施設の老朽化が進んでいる。
 ・蓼科エリアについては、蓼科高原の核となる蓼科湖周辺を整備し、今後は賑わいの創出が必要となってくる。
 ・綱文エリアは、晴ヶ峰観光施設へ案内所機能の整備が求められ、峠の茶屋を中心とした周辺の施設整備が必要となってくる。

目的

対象 受益者 (誰のために) 市民、観光客、登山者
 対象 対象 (直接働きかけ) 同上
 意図 (どんな状態にしたいか) 八ヶ岳エリア・・・初心者からエキスパートまで安全に、快適な登山が楽しめるように整備する。
 白樺湖・車山エリア・・・駅伝合宿による知名度向上により、アスリートだけでなく一般客が集う白樺湖を目指す。
 蓼科湖エリア・・・蓼科湖に集客の核となる道の駅を整備し、活気ある蓼科を取り戻す。

手段・方法
(どうやって)

自然環境整事業、パイロット事業を活用し、整備の遂行を図る。また、地域の関係者等と連携を図った観光まちづくりを推進する。
 ・八ヶ岳エリア・・・登山道整備工事、トイレ整備工事の実施
 ・白樺湖・車山エリア・・・白樺湖遊歩道整備工事、白樺湖公衆トイレ整備、合宿誘致活動
 ・蓼科湖エリア・・・蓼科湖遊歩道整備工事及び道の駅構想の推進、御射鹿池公衆トイレ整備
 ・綱文の里エリア・・・峠の茶屋で営業している業者と整備計画の検討及び整備を行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	観光施設整備	観光施設整備件数	件	観光施設の合計整備件数
	2	外国語標記の看板の設置	外国語標記の看板の設置件数	件	外国語標記の看板の合計設置件数	10
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	ジョギングコース利用者数の増加	延利用者数	千人	8ヶ月×30日×100人=240,000
	2	蓼科湖観光客数の増加	延利用者数	千人	365日×3000人=1,000,000	1,000,000
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)	円	50,161,356	77,416,000		
国庫支出金		円	0	0			
県支出金		円	26,762,000	28,777,000			
地方債		円	0	0			
その他特定財源		円	23,055,560	44,911,000			
状況	観光施設整備件数	目標	件	5	6		
		実績	件	5			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	外国語標記の看板の設置件数	目標	件	10	10		
		実績	件	14			
		達成率	%	140.00	-	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
	成果指標	延利用者数	目標	千人	240	240	
実績			千人	15			
達成率		%	6.25	-	-	-	
延利用者数		目標	千人	1,000	1,000		
	実績	千人	110				
達成率	%	11.00	-	-	-		
備考							

事務事業名	観光施設整備事業		事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係			連絡先	422

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果				
	コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 (CHICK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	白樺湖エリア・夢科湖エリアそれぞれへの来客数に対して、ジョギングコース・夢科湖への来客が大幅に少ない状況になっている。				
	成果	来客数は目標数に達していないものの、夢科湖エリアでは駐車場整備により駐車台数が増加した。				
	課題	観光客のニーズを把握し、施設の整備を進めて行くことが必要である。 トイレの設置要望、遊歩道の整備、駐車場の整備など計画的に進めることが必要である。				
	改革・改善の方向性(ACIT)策び内容	現状維持 現状維持 地元協会との定期的な打合せを行い観光客のニーズに合わせた改修計画を立案する必要がある。 白樺・夢科エリアについて、整備個所の検討と年次計画の立案が必要である。				

作成担当者	長田 勇人				
最終評価責任者	北沢 政英				
最終評価年月日	R1.5.17				

事務事業名	千駄川自然学校管理運営事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

政策番号	04	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	低
			基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A			
			基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A			
			実行計画	05	観光振興ビジョン	0504	観光まちづくりと運動した観光環境整備の推進		

予 算 事 業 名	千駄川自然学校管理運営費	会計コード	01	款	07	項	01	目	05	事業	07
-----------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
茅野市が所有する千駄川自然学校の施設を維持管理し、自然体験プログラムにおける観光振興を図っていく。茅野市の特色を活かし、八ヶ岳中腹に広がる同施設でなければ体験することのできない、自然に特化した自然体験プログラムを推進することにより、学習旅行、八ヶ岳スーパートレイルなどの活性化を図る。

現状と背景
(どうして)
茅野市千駄川自然学校の施設管理を茅野市が行い、プログラムの企画を含めた運営をNPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校へ委託している。NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校と協力し自然体験学習を目的とした学習プログラムを企画・実施することで、自然体験活動の推進及び観光振興の充実を目指している。また指定管理者制度を導入することで多様化したニーズを持つ観光客への満足度向上、住民サービスの向上、経費の削減等を目指し、さらなる自然体験を通じた観光振興を図りたい。

目的
対象
受益者
(誰のために)
NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校、市民および観光客

対象
対象
(直接間接きかけ)
NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校、市民および観光客

意 図
(どんな状態にしたいか)
参加者が満足する体験プログラムを充実させ、市民および観光客の集客に繋げる。

手段・方法
(どうやって)
市の直営施設として利用者が安全かつ快適に利用できる様に施設の管理を行う。NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校と協力して年間利用者数の分析により人気のあるプログラムについて検討分析を行い、利用者増が見込まれるプロモーション活動を行う。指定管理者の導入においては茅野市指定管理者制度運用指針に基づき選定を進めていく。

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
活動指標	1	プロモーション活動	プロモーション活動	回	体験プログラムのプロモーション	5
	2	プログラムの検討	検討会議	回	プログラムの分析に対する検討会議	2
	3					
変更履歴						

成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
成果指標	1	体験プログラムの参加者数	利用者数	人	体験プログラムへの参加者数	8,000
	2	指定管理者制度の導入	指定管理者	者	茅野市指定管理者制度運用指針に基づき導入	1
変更履歴						

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財 源 内 訳	事業費等(a)	円	4,426,946	5,267,000			
	国庫支出金	円	0	0			
	県支出金	円	0	0			
	地方債	円	0	0			
	その他特定財源	円	0	3,000			
	一般財源	円	4,426,946	5,264,000			
活動指標	プロモーション活動	目標	回	5	5		
		実績	回	5			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	検討会議	目標	回	2	2		
		実績	回	2			
		達成率	%	100.00	-	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
D 成 果 指 標	利用者数	目標	人	8,000	8,000		
		実績	人	8,291			
		達成率	%	103.64	-	-	-
	指定管理者	目標	者	1	1		
		実績	者	0			
		達成率	%	0.00	-	-	-
備 考							

事務事業名	千駄川自然学校管理運営事業	事業期間	~	年度	係内番号	04
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	魅力あるプログラムの検討を行い、プロモーションをすることで、サマーキャンプを中心とした体験プログラムが好評となり、利用者目標を上回る結果となった。 指定管理者制度導入に向けて、理事者協議を行った。				
	総合評価	新たな体験プログラムを達成し、満足できる利用者数となったことで、自然体験活動を推進し、観光エリアの活性化をすることができたと考える。				
	課題	指定管理者制度の導入へ向け、宿泊棟施設の方向性や導入スケジュール調整等の諸問題の解決が必要である。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持 現状維持			
改革・改善の方向性の内容	成果 コスト	千駄川自然学校の更なる活性化を目指し、指定管理者制度を早期に導入する必要がある。それまでの間、NPO法人夢科・八ヶ岳国際自然学校と協力し体験プログラムの企画・実施が必要となるが、新規利用者だけでなく、リピーター利用者をターゲットに含めることで、更なる自然体験活動の推進・観光エリアの活性化を目指す。				

作成担当者	宮下 賢仁				
最終評価責任者	北沢 政英				
最終評価年月日	R1.5.17				

事務事業名	観光温泉施設管理運営事業	事業期間	～	年度	係内番号	05
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

政策番号	04	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	低
		基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A				
		基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A				
		実行計画	05	観光振興ビジョン	0504	観光まちづくりと連動した観光環境整備の推進			

予 算 事 業 名	観光温泉施設管理運営費	会計コード	01	款	07	項	01	目	05	事業	08
-----------	-------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
茅野市が所有する白樺湖総合温泉施設「すずらの湯」の維持管理、及び健康市民サービス利用分等の補填金管理業務を行う。運営については指定管理者制度を導入している。

現 状 と 背 景
(どうして)
茅野市がすずらの湯を所有し、指定管理者として茅野市総合サービス株式会社に運営を委託している。白樺湖畔の温泉施設として観光客を主なターゲットとし営業を行っており、建築から約20年経過していることから、同施設を長く維持していくための定期的なメンテナンスが必要である。

目 的
対 象
受 益 者
(誰のために)
観光客、市民
対 象
(直接働きかける)
観光客、市民
意 図
(どんな状態にしたいか)
観光地の温泉施設として立ち寄る施設を目指し、またすずらの湯の利用を目的として白樺湖を訪れるように施設の充実化を図り、市民の健康増進と観光の振興に繋げていく。

手 段 ・ 方 法
(どうやって)
市の直営施設として、利用者が安全かつ快適に利用できるよう施設管理を行う。
利用者アンケートなどの活用により利用者ニーズをつかみ、施設管理へ繋げていく。

評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	温泉施設の維持管理	機械設備の点検	回	管理委託業者による営業前の点検	365
		2					
	3						
	変更履歴						
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	利用者からの苦情を無くす	非苦情発生件数	件	1年間に利用者からの苦情がなかった日を1件として	365
		2	温泉利用者数	入場者数	人	茅野市総合サービス株式会社が目標としている数字（自社の年間の運営ができる）	90,000
	変更履歴						

実 施 状 況 (D O 備 考)	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	11,999,263	13,077,000				
	財源内訳							
	国庫支出金	円	0	0				
	県支出金	円	0	0				
	地方債	円	0	0				
	その他特定財源	円	8,070,342	8,350,000				
	一般財源	円	3,928,921	4,727,000				
	活動指標	機械設備の点検	目標	回	365	365		
			実績		365			
			達成率	%	100.00	-	-	-
		-	目標	-				
			実績					
			達成率	%	-	-	-	-
	成果指標	非苦情発生件数	目標	件	365	365		
実績				355				
達成率			%	97.26	-	-	-	
入場者数		目標	人	90,000	85,000			
		実績		80,576				
		達成率	%	89.53	-	-	-	

事務事業名	観光温泉施設管理運営事業	事業期間	~	年度	係内番号	05
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	入場者数は、総合サービスが目標にしている9万人に届かなかった。入場者の減る秋シーズン、12~1月の雪不足によるスキーを目的とした観光客の減による影響が考えられる。				
	総合評価	老朽化による不具合については営業前点検によって事前に把握、防止。そういった中から安全、快適に利用するため、浴室タイルの張替え、トイレの様式化を行い、利用者から高い満足を得た。				
	課題	白樺湖の活性化を図る上では必要な施設である。指定管理者と入場者を増やす対策の検討、企画。「お客様の声」を元に満足度を高める為の対策をし、リピーターを増やす。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持			
改革・改善の方向性の内容	成果 コスト	現状維持				
改革・改善の方向性の内容	成果 コスト	老朽化が進む中で効果的な設備維持投資。指定管理者と共に、PR活動の推進。				

作成担当者	長田 勇人				
最終評価責任者	北沢 政英				
最終評価年月日	R1.5.17				

事務事業名	蓼科観光施設建設基金	事業期間	～	年度	係内番号	06
担当部署	産業経済部	観光まちづくり推進課	観光係	連絡先	423	

計 画 目 的 意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	政策番号	04	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度 低							
			基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A										
			基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A										
			実行計画	05	観光振興ビジョン	0504	観光まちづくりと連動した観光環境整備の推進									
予 算 事 業 名	蓼科観光施設建設基金積立金						会計コード	01	款	07	項	01	目	05	事業	04
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	蓼科観光施設整備に要する経費の財源として、入湯税の2分の1相当額を積み立てる事業である。															
現 状 と 背 景 （ どう して ）	入湯税は、地方税法では目的税であり、必要な施設の整備ならびに観光振興に要する費用に充てるものとされている。茅野市においては「茅野市蓼科観光施設建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」により、蓼科観光施設に要する経費の財源として入湯税の一部を毎年度基金として積み立てている。															
目 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受 益 者 （誰のために）	蓼科地域を訪れる観光客														
	対 象 （直接間きかける）	同上														
意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	入湯税の納税者は蓼科エリアが大半を占めている。蓼科エリアに入湯税を還元し、市内観光地の中心地である蓼科エリアの観光振興が一層高まるよう、蓼科観光施設整備の財源の確保を目指す。															
手 段 ・ 方 法 （ どう や っ て ）	毎年度、入湯税額が確定したところで2分の1相当額を基金に積み立てる手続きを行う。															
活 動 指 標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値								
	基金の積み立て	積立金額						-								
変 更 履 歴	毎年予算額は変更となるため、数値目標は設定しない。															

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単 位	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等 (a)	円	35,971,313	37,525,000	
財 源 内 訳	国庫支出金	円	0	0			
	県支出金	円	0	0			
	地方債	円	0	0			
	その他特定財源	円	971,313	1,025,000			
	一般財源	円	35,000,000	36,500,000			
活 動 指 標	積立金額	目標	-	-			
		実績	35,971				
		達成率 %	-	-			

事 後 評 価 （ C H E C K ）	項 目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		総合評価	観光施設整備事業において基金を取り崩し、事業を行うことで蓼科の観光振興を図った。このことで入湯税を確保し、基金の積み立てを行った。			
課 題	成 果	特になし				
	課 題	特になし				
改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T ）	翌々年度方向性	成果 現状維持 コスト 現状維持				
	改革の方向性及び改善内容	成果 特になし				

作成担当者	長谷川 誠				
最終評価責任者	北沢 政英				
最終評価年月日	R1.5.17				